

第4学年 総合的な学習の時間学習指導案

1 単元名 「ハッピー・プロジェクト」(福祉・健康)

2 指導観

<こんな子どもだから>

国語科「手と心で読む」では、目の不自由な筆者が家族の励ましの中で点字を学び、点字を通して知識や考え、思いを伝え合う喜びを実感する姿を学んだ。しかし、これまで実際に障がいのある方と接したり、思いを聴いたりした経験のある子どもは少ない。また、まわりで支えている人の存在があるという意識は薄い。(関心・意欲・態度)
 「聴くこと・話すこと」の実践では、友達の考えを共感的な態度で聴き合うことを通して、話したり聴いたりする喜びを味わうことができるようになってきた。しかし、その中で見方や考え方を深めることは、これからの課題である。(技能・表現)
 子ども達は、これまで人との関わりを通して、人には自分と違うところや個性があることを感じてきた。しかし、時折、友達に対して思いが及ばず、トラブルになる場合もある。そこで、日々の学習活動の中で、自他共に尊重し合うことの大切さを実感できるように、人間関係づくりを進めている。(思考・判断)

<こんな単元で>

本単元は、障がいのある方やその方の自立をサポートしている方との出会いを通して、思いや願いにふれることで、障がいに対するこれまでの見方・考え方を見直し、共に生きていくことの大切さを考えることがねらいである。

本単元で紹介するKさんは、自分のことを支えてくれている人への感謝の気持ちから、自分も人の役に立ちたいと積極的に活動されている方である。

Aさんは、障がいについて知ってもらうために講演をしたり、水泳競技の大会に参加したりする等活動的な方である。

また、Sさんは、福岡市の職員として働きながら、車いすラグビーや陸上競技で活躍されている方である。それぞれの思いで自己実現しようとされている三人の生き方に触れさせたい。

キャップハンディ体験では、相手を思いやり、行動することの大切さに気付かせたい。体験をサポートしていただく福祉協議会のIさんの「人と人とのつなぎ役」としての話を聴き、活動に生かすようにさせたい。

<こんな支援で>

「であう」過程では、国語科の学習やキャップハンディとバリアフリー調べといった体験活動、障がいのある方との関わりなどを通して、問題意識をもたせたい。その活動を通して、障がいのある方の思いを知り、仲良くなるために自分にできることは何だろう、という活動への意欲を高めさせたい。

【知識的側面】・【価値的・態度的側面】

「さぐる」過程では、課題別のグループの仲間と協力しながら、障がいのある人の思いを知り、もっと仲良くなるためにはどうすればよいか、という課題を追究させたい。また、聴き合い活動で友達の意見や考えを共感的な態度で聴き、他者の考えを取り入れるとともに互いを尊重し合う気持ちを育てたい。また、聴き合い活動で友達の意見や考えを共感的な態度で聴き、他者の考えを取り入れるとともに互いを尊重し合う気持ちを育てたい。

【価値的・態度的側面】

「まとめる」過程では、これまでの課題追究を生かして、思いをわかり合うことの大切さを実感する場を設定していきたい。そして、互いに尊重し合うことや小さなことでも続けて取り組むことが共生への第一歩であることに気付かせたい。

【技能的側面】

<めざす子どもの姿>

障がいのある方、まわりで支援している方との出会いを通して、自分なりに課題意識をもち、積極的に活動しようとするができる。(関心・意欲・態度)

いろいろな人と主体的・共感的に関わることを通して、自分の見方や考え方を深め、調べたことや考えたことをわかりやすく伝え合うことができる。(技能・表現)

障がいのある方と思いを伝え合い、共に生きていくためにはどうすればよいかを追究し、自己の生き方について考えることができる。(思考・判断)

3 指導計画（総計28時間）

過程	主な学習活動と内容	教師の支援と子どもの評価活動 教師の支援 子どもの評価活動
であつ	<p>1 国語科「手と心で読む」の筆者の思いや願いを想起する。</p> <p>人間の知恵は，人々の心をつなぐ便利な道具や方法を考え出し，多くの人に喜びをもたらしていくでしょう。（教材文より）</p> <p>2 キャップハンディ体験（障がい者疑似体験）をする。</p> <p>キャップハンディ体験をし，障がいの不便さを感じる。 <体験・交流活動 ></p>	<p>教材文の最後の一文を手がかりに，人々の心をつなぐために何が大切か，ということを考えさせたい。</p> <p>障がいについて知り，障がいのある方と関わってみたい，点字などの方法を知りたいという意欲をもたせる。</p>
	<p>【ゲストティーチャー】 博多区社会福祉協議会 Iさん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いす体験，目かくし歩行 <p>(1) 体験を振り返り，気づいたことや考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こわい。 ・苦労する。 ・ペアの友達が声をかけ，教えてくれると安心できた。 <p>3 障がいのある方と出会う。</p> <p>障がいのある方と出会い，前向きな姿にふれる。 <体験・交流活動 ></p>	<p>体験の場の設定については，安全面に配慮する。</p> <p>相手の立場に立った声かけや行動を考えさせたい。</p>
	<p>【ゲストティーチャー】 視覚に障がいのある方 Kさん 四肢に障がいのある方 Aさん 下肢に障がいのある方 Sさん</p> <p>(1) 障がいのある方と交流する。 (2) 出合いを振り返り，気づいたことや考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなことに挑戦してすごい。 <p>4 バリアフリーについて調べる。</p> <p>(1) 校区内のバリアフリーの施設を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区公民館 等 <p>(2) 調べたことを振り返り，気づいたことや考えたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが利用しやすいように工夫されていることに気づいた。 <p>5 学習課題を設定する。</p> <p>(1) これまでの活動を振り返り，学習課題を設定する。</p> <p><学習課題1 > 障がいのある人の思いを知り，もっと仲良くなるために自分にできることを考えよう。</p> <p>(2) 自分の課題をもち，思いを聴き合うことで，課題を見直す。</p> <p>【4年〇組本時】 聴き合い活動 <課題例 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・点字の読み方や書き方を調べ，Kさんにお手紙を書きたい。 ・障がいのある人のスポーツについて調べたい。 ・車いすや目かくし歩行など相手が安心できるような補助のしかたを調べたい。 ・学校や校区のバリアフリーについて調べ，紹介したい。 <p>(3) 聴き合い活動の振り返りカードを書く。</p>	<p>相手の立場を考えた交流ができるように計画し，実践させる。</p> <p>障がいのある方だけではなく，サポートしている方の存在にも気付かせたい。</p> <p>調べる体験を通して，だれもが便利に生活するために工夫されていることに気づかせたい。</p> <p>いろいろな人（障がい者，高齢者者，子ども等）が利用しやすいように工夫されていることや問題点に気付かせたい。</p> <p>もっと知りたい，活動してみたいことを考えマップにまとめ，これまでの活動を振り返り，課題をもつ。</p> <p>わかりやすく話したり，友達の話を積極的・共感的な態度で聴いたりできるような雰囲気づくりをする。 振り返りカードをもとに自己評価する。</p> <p><聴き合い活動の評価の視点 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴き方の態度 ・友だちの考えのよさ ・自分の考えの変容 ・振り返りの共有化

4 本時「聴き合い活動を通して、自分が取り組んでみたい課題を見直す場面」(10/28)

5 本時の目標

自分の課題をわかりやすく伝えたり、友達の課題を積極的に聴いたりすることができる。

(関心・意欲・態度)

人との関わりや体験を通して考えた自分の課題について、聴き合い活動の中で見直し、深めることができる。
(思考・判断)

6 本時指導の考え方

これまで子ども達は、国語科「伝え合うということ～手と心で読む～」の学習で、障がいと向き合い点字を習得した筆者が、家族の支えの中で絶望を乗り越え、前向きに生きるすばらしさ学んだ。

また、「キャップハンディ体験」や「まちの中のバリアフリー調べ」を通して、障がいのある人の不利な条件を擬似的に体験し、その人の立場を理解しようとしたり、いろいろな人が自立して生活しやすいように便利な設備が作られていることに気付いたりした。

これらの活動を通して、「障がいのある方と関わり、話を聴きたい」という意欲の高まりから、視覚に障がいある K さん、四肢に障がいのある A さん、下肢に障がいのある S さんにゲストティーチャーとして来ていただき、出会いの場を設定した。三人の方との交流の中で「障がいは不自由だけれど不幸ではない」という思いを知ることができた。そして、「障がいについて知り、もっと仲良くなるために、自分にできることを考えよう」という学習課題を追究していくことで、障がいのある方とさらに交流を深めることができるのではないかと考えた。

本時は、障がいのある方と分かり合い仲良くなるために取り組んでみたいことを、お互いに話し聴く、という「聴き合い活動」を取り入れ、自分の考えを付加・修正し、自分の課題を明確にもたせる過程を通して、活動への意欲を高め、見通しをもたせるとともに、自他を尊重する態度を育てることをねらいとしている。

導入段階では、本時学習の見通しをもち、めあてをつかませる。これまで出会った方々の思いを想起させ、本時のめあてである「障がいのある人の思いを知り、もっと仲良くなるために、自分にできること」につなげたい。

展開段階では、人との関わりを通して生まれた一人ひとりの課題について、聴き合い活動を行う。話し手は、出会ったゲストティーチャーの思いや自分の考えを伝えるために表現物等を見せながら話す等の工夫をさせたい。また、聴き手は話し手を尊重した態度で聴きながら、質問や確かめをしていくことで、話し手の考えを深めさせようとするのが大切である。自分の話を受け入れてもらう心地よさを相互に味わいながら、質問等を通して付加・修正し、自分の課題を決定させたい。

聴き合い活動では、お互いに自分の考えが伝わるように相手にわかりやすく話したり、真剣に聴いたりするような積極的な態度を大切に、「聴き方・話し方」としての評価をさせたい。そして、子ども達どうしが話をしっかりと聴き合い、その心地よさを共有化できるような「支持的風土のある学級集団」をめざしたい。

各自の問いから自分の課題をつかめないでいる子どもには、考えマップなどから事前に考えを把握しておき、コメントによる励ましや個別指導などを行い、自信をもたせ、自己決定するようにさせたい。そのような経験を重ねることが自己を肯定的にとらえることにつながると考える。

終末の段階では、自己評価カードをもとに、聴き合いの態度、友達の考えのよさ、自分の考えの変容などを観点にして活動を振り返り、感想等を発表し合うことで、お互いに高め合おうとする集団のよさを見直し、自他を尊重する態度を育てることができると思う。

7 準備

子ども 話す内容を書いた表現物、筆記用具

教師 これまで出会ったゲストティーチャーの写真

(Iさん, Kさん, Aさん, Sさん)

学習の流れを表した図、振り返りカード

8 本時の展開

学 習 活 動 と 内 容	教師の支援と子どもの評価活動 教師の支援 子どもの評価活動
<p>1 これまでの活動を振り返り，本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャップハンディ体験 ・障がいのある方との出会い ・バリアフリー調べ <p style="text-align: center;">— < 本時のめあて > —</p> <p>障がいのある人の思いを知り，もっと仲良くなるために，自分にできることを見直そう。</p> <p>2 一人ひとりの課題を聴き合う。</p> <p>(1) 出会った方々の思いを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめにあい，死を考えたこともあった。 ・心のバリアをなくしたい。 ・周りの人に感謝している。 ・毎日とても楽しい。 <p>(2) 自分が取り組んでみたい課題について聴き合う。</p> <p style="text-align: center;">— < 課題例 > —</p> <p>「障がいのある人のスポーツについて調べたい」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理由 <li style="padding-left: 20px;">A さんが水泳のチャンピオンだと聞いてすごいと思った。障がいのある人の水泳について調べ，A さんともっと話してみたい。 <p style="text-align: center;">— < 聴き手として > —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の思いを受け止めようとする聴き方の態度 ・話を引き出すようなおたずね（質問） <p style="text-align: center;">— < 話し手として > —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを伝えようとする話し方の態度 ・表現物を見せたりするなど，わかりやすく話す工夫 <p>3 友達の質問や確かめをもとに，自分の考えを見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えを聴いて，点字を調べるだけではなく，K さんに点字の手紙を書いてみたいと思った。 <p>4 聴き合い活動を振り返る。</p> <p style="text-align: center;">— < 振り返りの視点 > —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴き手・話し手としての態度 ・友達の考えのよさ ・自分の考えの変容 <p>(1) 振り返りカードを書く。</p> <p>(2) 振り返ったことを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんながしっかりと話を聴いてくれてうれしかった。 ・キャップハンディ体験での友達の感想を聴いて相手のことをよく考えているんだなあと思った。 ・友達の話を聴いて，点字ブロックの秘密を調べてみようと思った。 <p>5 本時学習をまとめ，次時学習について知る。</p>	<p>本時のねらいを意識させるために，これまでの出会った人物の写真などを提示し，振り返ることができるようにする。</p> <p>体験活動やゲストティーチャーとの交流を想起したり，本時のめあてをつかんだりして活動への意欲をもつ。</p> <p>一人ひとりの意識や興味・関心等を把握し，自信をもって交流できるようにする。</p> <p>聴き合い活動の場の設定(グループ編成)を工夫し，活発な活動ができるようにする。</p> <p>考えがまとまらない場合は，友達の意見を聴いたり，先生に相談したりすればいいことを伝える。</p> <p>友達どうして考えを認め合ったり，おたずねをし合ったりすることで，それぞれの考えを明確にさせていく。</p> <p>課題についてそのままよいと考えた子どもについては，それを尊重する。</p> <p>友達の考えを取り入れ，自分の課題を付加・修正しようとする。</p> <p>活動について振り返り，そのことを友達に伝えたり，友達の意見を聴いたりする。自己評価・感想等は全体の場で発表し合うことで，聴き合うことのできる支持的風土のある学級集団のよさを共有したい。</p>

4 本時「各グループの課題を話し合い、明確にする場面」(12/28)

5 本時の目標

自分の考えをわかりやすく伝えたり、友達の話積極的に聴いたりして、思いを生かしたグループの課題づくりをしようとする事ができる。(関心・意欲・態度)

一人ひとりの考えのよさを生かして話し合い、課題を明確にもつことができる。

(思考・判断)

6 本時指導の考え方

これまで子ども達は、キャップハンディ体験や下肢に障がいのある方、視覚に障がいのある方との出会いを通して、障がいとつきあいながら前向きに生きている姿に触れたり、その方達を支えている人の存在の大切さに気づいたりした。その体験や出会いの中で感じ取ったことから、「障がいのある人の思いを知り、もっと仲良くなるために、自分にできることをやってみよう」という学習課題をもった。そして、聴き合い活動を通して、一人ひとりの課題を明確にすることができた。これからは、それぞれの思いを生かした課題別グループ(プロジェクトチーム)を編成し、どのように追究していくのか話し合いを進めていくところである。

本時は、グループや学級全体などの話し合いの場を設定し、自分達の課題を工夫・改善しながら追究活動への意欲を高めることをねらいとしている。

導入段階では、出会いの活動を通して設定した一人ひとりの課題を想起させ、それを生かしてグループで話し合ったり、交流したりして課題を決定していくことをおさえない。

展開段階では、まず、各グループでそれぞれの課題について話し合い、これからの活動への意欲を高めさせる。その際、グループのみんなが話し合いに参加できるようにルールを決めるなど雰囲気作りを心がける。そして、進行役など役割を分担したり、一人ひとりの思いや考えを話す場の工夫をするなどして、自分の課題に対する考えを深めたり、自分がグループの一員であるという実感を持つことができるようにする。この話し合いを通してグループの中で共通理解を図り、全体での発表につなげていきたい。発表の場では、他のグループの課題を知り、自分達の課題や活動計画を見直すヒントにすることができるようにしたい。その場合、聴き合い活動で大切にしている「積極的な聴き方・共感的な態度」を生かし、温かい雰囲気の中で話し合いができるようにしたい。

これらの活動を通して、各グループそれぞれの課題が明確になり、価値のある追究活動が始まることが期待できる。

自分の考えに自信がもてない子どもには、考えのよさに気付くように個別に助言し、活動への意欲を高めさせたい。

終末の段階では、振り返りカードをもとに、話し合いの態度、自分や友達のよさ、考えの変容などを観点にして振り返らせ、学級集団の中で感想等を共有化することを通して、友達の考えに学ぶことのよさを実感させ、集団のよさを見直し、自他を尊重する態度を育てることができると考える。

7 準備

子ども 筆記用具、自分の課題を書いた発表ボード、メモ用紙

教師 学習の流れ図、振り返りカード、グループの発表ボード

8 本時の展開

学 習 活 動 と 内 容	教師の支援と子どもの評価活動 教師の支援 子どもの評価活動
<p>1 これまでの活動を振り返り，本時のめあてをつかむ。</p> <p> <本時のめあて> _____</p> <p> プロジェクトチームの課題を話し合っ て決めよう。</p> <p>2 課題について話し合う。</p> <p>(1) 話し合いのルールを確かめる。</p> <p> <話し合いのルール> _____</p> <p> 司会者に指名されてから意見を言う。 うなずきながら，最後まで聴く。 一人ひとりの考えをできるだけ生かす。</p> <p>(2) グループで話し合う。</p> <p> 自分の課題を紹介する。 グループの課題について話し合う。 ・追究したい課題，活動計画</p> <p> <追究したい課題例> _____</p> <p> (点字プロジェクト)</p> <p> ・身の回りにある点字ブロック</p> <p> ・点字の仕組み</p> <p> ・点字の表し方</p> <p> (理由)</p> <p> ・K さんから，学校の近くにも点字ブロック があると聴いたので，どこにあるか知りたい。</p> <p> ・K さんに手紙を書きたい。</p> <p> 発表の準備をする。</p> <p> ・発表ボード作りや役割分担</p> <p>3 各グループの発表を聴いて，自分のグループの課題を明確にする。</p> <p>(1) それぞれの課題の発表をする。</p> <p>(2) 課題を見直し，決定する。</p> <p> ・バリアフリープロジェクトの発表を聴いて， 自分達も公民館だけでなく，駅にある点字も 調べてみようと思った。</p> <p>4 活動を振り返る。</p> <p>(1) 振り返りカードを書く。</p> <p>(2) 振り返りを発表し合う。</p> <p> <振り返りの視点> _____</p> <p> ・話し合いの態度</p> <p> ・友達や各グループのよさ</p> <p> ・自分のよさや変容</p> <p> ・一人では自信がなかったから，いっしょに活動する仲間ができてうれしい。</p> <p> ・友達の思いを知って，私も K さんに手紙を書きたいと思った。</p> <p> ・みんなで話し合っ て，駅と公民館の点字を調べることに決めることができた。</p> <p>5 本時学習をまとめ，次時学習について話し合う。</p>	<p>一人ひとりの考えを把握するとともに，考えのよさを認めるような助言をし，自信をもつことができるようにする。</p> <p>これまでの活動を振り返り，自分の課題を明確にし，話し合いに参加する。</p> <p>全員が話し合いに参加できるように自分達で工夫できるようにする。</p> <p>グループの中で進行役などの役割を決めて話し合わせる。</p> <p>ゲストティーチャーとの関わりを通して生まれた一人ひとりの思いから，グループの課題へ広げていくようにする。</p> <p>お互いの考えを認め合ったり，質問を合ったりすることを通して，課題を明確にさせる。</p> <p>話し合いへの参加に消極的な子どもには，個別に助言し，考えを価値づける。</p> <p>同じ意見や似た意見はメモにまとめたりしながら，自分達の課題を分類・整理させる。</p> <p>積極的に話し合いに参加し，意見を発表したり，友達のよさを見つけたりする。</p> <p>聴き合い活動で大切にしている積極的に聴く姿勢や共感的な態度について確かめ，お互いの考えが深まるようにする。</p> <p>他のグループの課題を知る，自分達の課題のヒントにするという聴く視点を与え，目的をもって聴くことができるようにする。</p> <p>振り返りの視点にそって活動を振り返る。</p> <p>・一人ひとりの思いを大切にしながら話し合い，課題を決めることができる。</p> <p>・自分や自分のグループのよさがわかる。</p> <p>・他のグループの課題や活動計画を自分たちの課題作りに生かすことができる。</p> <p>自己評価・感想等を全体の場で発表し合わせることで，話し合いの中で練り上げていける支持的風土のある学習集団のよさを共有したい。</p>